



# ソフトバンク IDC 株式会社

## データセンター・ビジネスの価値向上へ 新バックアップ・サービスを開始 統合バックアップソリューションで運用を効率化

### ■要件

データセンター・ビジネスの付加価値を高める「マネージド・サービス」展開の一環として、高度なデータバックアップ・サービスの提供を検討した。社内システムのバックアップ体制を同時に刷新する。

### ■ソリューション

先端バックアップ・ソフトとネットワーク接続ストレージ (NAS) を組み合わせた、最新のDisk to Disk技術に基づく「統合バックアップソリューション」の導入により、高速で高効率なバックアップ/リストアを実現する。

### ■成果

バックアップ・データ量の最大60%削減といった効果が出ている。今後は導入拠点を追加し、さらに多くの顧客に向けて新しいバックアップ・サービスを提供するなど、競争力をより高めていく。

### 顧客満足度と信頼性の向上へ バックアップの刷新を検討

インターネット・データセンター (IDC) 専業の企業として、数多くの顧客から信頼を得ているソフトバンク IDC。同社はサーバーやシステムを預かる“場所貸し”ではなく、顧客が求める付加価値を提供することで競争力を高めるべく、日々サービスの拡充を進めている。

既にこの方針に沿い、ロードバランサーやファイアウォールなどのネットワーク機器の運用管理を一括して受託する運用付加価値サービスを顧客に提供してきた。

同社取締役 技術・運用分掌役員の三浦剛志氏は「多数の機器が稼働するセンターの放熱/環境対策といったインフラのレイヤーへの配慮も早くから行うなど、常に先進的な施策を続けてきました」と語る。

そんな同社で、バックアップ・システムの刷新が検討されたのは2006年のことだ。技術本部 システム部 サーバプラットフォームグループ シニアマネージャーの山下秀登氏は

「従来は、システムごとにバックアップ/リストアを行っており、運用負荷も軽くありませんでした。磁気テープを利用していたため、バックアップ処理の長時間化という課題もありました」と振り返る。

そこで同社は、磁気テープよりも高速なバックアップ/リストアを可能にする、最新のDisk to Disk技術に基づく新たな付加価値サービス「マネージド・データバックアップ・サービス」の開始を検討した。高速/高機能なバックアップ・サービスとしてユーザー企業に提供するとともに、社内システムのバックアップ効率化に役立つ。

要件をまとめ、4~5社のITベンダーに提示したのが2006年末。さらに3社の提案するシステムに候補を絞り、詳しく検討を行った。その結果、最終的に選んだのが、新日鉄ソリューションズの「統合バックアップソリューション」である。

同ソリューションは、ストレージ管理ソフト、ネットワーク接続ストレージ (NAS) それぞれのトップベンダー

であるSymantecとNetwork Appliance (NetApp) の先端技術の融合により生まれた新機能を、新日鉄ソリューションズが緻密に検証して、ソリューション化したもの。

このソリューションには、三つの特徴的な機能がある。重複データを排除して、容量を圧縮する「De-dupe」、エンドユーザーによる直接リストアを可能にする「Client Direct Restore」、そして差分取得時に以前のフルバックアップ・データと合成する「Synthetic」だ。

### 先進性と信頼性を兼ね備える 統合ソリューションを採用

山下氏は選定の理由を「ソフトとハード、双方のベンダーの協力で実現した機能が数多く用意されていた点を高く評価しました」と語る。

技術本部 システム部 サーバプラットフォームグループマネージャーの菊石謙介氏は「中でも気に入ったのは、De-dupeです。SymantecのVeritas NetBackupと、NetAppのNASの機能を組み合わ



ソフトバンクIDC株式会社  
取締役  
技術・運用分掌役員  
三浦 剛志氏



ソフトバンクIDC株式会社  
技術本部 システム部  
サーバプラットフォームグループ  
シニアマネージャー  
山下 秀登氏



ソフトバンクIDC株式会社  
技術本部 システム部  
サーバプラットフォームグループ  
マネージャー  
菊石 謙介氏

せ、異世代間の重複部分を排除/圧縮する斬新な機能でした」と振り返る。

同ソリューションへの信頼感も高かった。ソフトバンクIDCの顧客は“キャリア・グレード”の厳しい信頼性を求める。その点でもこのソリューションは合格だった。

「統合バックアップソリューションには、実績あるNetApp、Symantec、そして両社の製品をまとめる新日鉄ソリューションズという、我々が信頼できる協業体制が整っていました」(三浦氏)。

統合バックアップソリューションの導入が始まったのは、2007年3月である。2カ月後の5月にはバックアップ・システムの完全な入れ替えが完了した。新日鉄ソリューションズは、バックアップ履歴管理などの機能を持つ、管理システムも開発するなど、きめ細かな対応も行った。

予想しないトラブルはいくつか起きたが着実に対応された。例えば、

### ■コアテクノロジー

統合バックアップソリューション、D2D (Disk to Disk)、De-dupe (重複排除)、Synthetic (差分合成)、Client Direct Restore (直接リストア)

### ■システム概要

- サーバー：Sun Fire V245 (Solaris 10)
- バックアップ・ソフト：Veritas NetBackup 6.0 Enterprise Server
- ストレージ：富士通 ETERNUS NR1000 F30 50 (約10TB)

ソフトやストレージ単体では利用できるが、組み合わせると使えない機能が一部にあった。新日鉄ソリューションズはそれを一覧表にしてソフトバンクIDCに提供している。トラブルの解決や回避という過程を経ることで、逆に新日鉄ソリューションズへの信頼感は増したという。

### 導入過程で高まった信頼感 複数拠点への展開も視野に

「障害原因の切り分け、製品ベンダーのコントロール、そして情報のタイムリーな公開など、新日鉄ソリューションズの対応力の高さに感心しました。エンジニアの皆さんの真摯な取り組みも、印象に残っています」(山下氏)。

ます」(山下氏)。

新システムの効果は大きい。「例えば、ある1台のサーバーを確認したところ、De-dupe技術によってバックアップ・データ量が最大60%削減できました」(菊石氏)。

同社は統合バックアップソリューションを複数のデータセンターで採用する予定だ。「バックアップ・データの遠隔地保管など拡張性に富んだシステムで、拠点への配備もしやすい」と山下氏は期待する。

バックアップ・サービスのほかにも、Grid技術を活用したユーティリティ・サービスやDR (ディザスタ・リカバリ) など、ユーザー企業が求めるサービスを展開したいという。

### ■ソフトバンクIDCが構築したマネージド・データバックアップ・サービスの概要

